



## 平成23年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年5月12日

上場会社名 ガイアホールディングス株式会社  
コード番号 3727 URL <http://gaia-hd.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 郡山 龍

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 (氏名) 伊藤 洋

TEL 03-5286-8436

四半期報告書提出予定日 平成23年5月16日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年12月期第1四半期の連結業績(平成23年1月1日～平成23年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年12月期第1四半期	2,075	1.9	△19	—	△37	—	△156	—
22年12月期第1四半期	2,036	150.1	△157	—	△162	—	109	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年12月期第1四半期	△1,544.00	—
22年12月期第1四半期	1,083.68	1,083.01

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年12月期第1四半期	15,504	13,712	77.6	118,725.81
22年12月期	15,354	13,881	79.6	120,576.50

(参考) 自己資本 23年12月期第1四半期 12,032百万円 22年12月期 12,216百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年12月期	—	—	—	—	—
23年12月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年12月期の連結業績予想(平成23年1月1日～平成23年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	—	—	—	—	—	—	—	—	—
通期	9,500	0.6	350	65.9	270	65.6	25	△92.5	246.74

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

平成23年12月期の第2四半期業績予想につきましては、当社技術を搭載した民生用電子機器を顧客が出荷する中で、当社の第2四半期末を跨ぐ6月から7月に新たな製品の発売が集中しており、出荷タイミングが前後することで当社の売上計上の時期が変わってしまうことから、当社単独では確度の高い予想を出すことが非常に困難であり、開示を控えさせて頂いております。

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無  
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）、  
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無  
（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
② ①以外の変更 無  
（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）  
① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年12月期1Q 101,364株 22年12月期 101,334株  
② 期末自己株式数 23年12月期1Q 14株 22年12月期 14株  
③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年12月期1Q 101,327株 22年12月期1Q 101,320株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間における当社グループの主な事業分野である携帯電話市場におきましては、スマートフォン、特にAndroid端末が相次いで投入され、市場全体が活性化し、国内では携帯電話の出荷台数が減少から増加に転じ、海外においては市場の更なる拡大の一因となりました。

一方、モバイルコンテンツ市場におきましては、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下「SNS」）によるソーシャルアプリの隆盛に加え、スマートフォンによる携帯電話市場の活性化もあり、エンターテインメント系のコンテンツやサービスを中心に市場規模が拡大しました。とりわけ、ソーシャルアプリの普及はゲームユーザーの裾野を拡げ、市場に活性化をもたらしました。これを受け、国内大手ゲームメーカーによるSNSプラットフォームへの参入や海外大手ゲームメーカーとの競合等により、ソーシャルゲームでの新規ユーザー獲得に向けた大手SNS間のワールドワイドな競争は今後さらに加速するものと思われま

#### (a) ソフトウェア基盤技術事業

中核事業であるソフトウェア基盤技術事業の売上については、日本国内を含めたアジアにおいて、前年同四半期比で増加傾向となり、スマートフォンによる携帯電話市場の活性化に同調する形となりました。特に中国市場における「JBlend」の売上については50%近い増加となりました。また日本国内についても、急拡大するスマートフォン市場において、「emblend」が順調に出荷を伸ばしており、国内の売上についても前年同四半期比で増収となっております。欧米ではスマートグリッド向けソリューション等の提供が始まっており、今後のロイヤリティ売上への貢献が期待されております。

コンテンツ・サービス等事業との連携に関しては、ブラジルにおいてシャープ携帯端末にJBlendの搭載とともに、当社子会社の株式会社ジー・モードの3タイトルのプリインストールゲームを提供いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間のソフトウェア基盤技術事業の業績は、売上高747,436千円（前第1四半期連結会計期間783,864千円）、営業損失183,179千円（前第1四半期連結会計期間245,133千円）となりました。

#### (b) コンテンツ・サービス等事業

コンテンツ・サービス等事業の主力事業であります公式コンテンツ配信事業におきましては、前連結会計年度第4四半期以降、スマートフォンの需要が急拡大し、従来型携帯電話での公式ビジネスが厳しい環境の中、総合ゲームサイト「テトリス&Getプチアプリ」で展開する「くるりん☆カフェ」、「アクアリス」等が堅調に推移いたしました。

オープンソーシャル事業におきましては、SNSユーザーへのサービスの認知度向上に向け、新たに「B面彼氏」、「ケータイ少女★恋愛パケット」の2タイトルを投入いたしました。

一般サイト事業におきましては、「戦国☆パラダイス」や「学園ヘタリアMobile」といった主要タイトルのマネタイズ強化に取組みました。

その他事業におきましては、ゲームライセンスの許諾やコンテンツ開発受託、オープンプラットフォーム向けコンテンツ配信、共同海外事業等からなる本事業セグメントにおきましては、NTTドコモが提供する「ドコモマーケット（iモード）」において公式コンテンツの提供を積極的に展開したほか、「au one Market」においてAndroidスマートフォン向けゲームアプリ「TETRIS DIAMOND」の配信を開始いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結会計期間のコンテンツ・サービス等事業の業績は、売上高1,328,144千円（前第1四半期連結会計期間1,252,928千円）、営業利益164,438千円（前第1四半期連結会計期間90,599千円）となりました。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間の業績につきましては、売上高は2,075,580千円（前第1四半期連結会計期間2,036,793千円）となりました。営業損益につきましては、19,010千円の営業損失（前第1四半期連結会計期間157,865千円）となりました。経常損益につきましては、投資事業組合運用損益、支払手数料の計上等により、37,858千円の経常損失（前第1四半期連結会計期間162,756千円）となりました。四半期純損益につきましては、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額の計上等により、156,448千円の四半期純損失（前第1四半期連結会計期間四半期純利益109,798千円）となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### (資産、負債、純資産の状況に関する分析)

当社グループの当第1四半期連結会計期間末における総資産につきましては、前連結会計年度末と比較して150,390千円増加し15,504,893千円となりました。これは株式会社アニメインターナショナルカンパニーを新規に連結したこと等により、のれんが922,252千円増加し、現金及び預金が620,455千円、有価証券が287,724千円それ

ぞれ減少したこと等によるものです。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して、319,883千円増加し1,792,796千円となりました。これは株式会社アニメインターナショナルカンパニーを新規に連結したこと等により、支払手形及び買掛金が183,283千円、前受金が105,616千円それぞれ増加したこと等によるものです。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比較して169,492千円減少し13,712,096千円となりました。これは、主に四半期純損失を156,448千円計上したことに伴い利益剰余金が減少したこと等によるものです。

以上の結果、当第1四半期連結会計期間末における自己資本比率につきましては、前連結会計年度末と比較して2.0ポイント減少し、77.6%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の見通しにつきましては、平成23年2月14日の発表数値から変更はありません。

当連結会計年度は、前連結会計年度に引き続き当社グループの事業環境は急激な変貌を続けていくと考えており、ソフトウェア基盤技術事業、コンテンツ・サービス等事業、共に変化に対応していく年度と位置付けております。

この様な状況ではありますが、変化に対応しつつも下記のように見込んでおります。

売上高	9,500百万円
営業利益	350百万円
経常利益	270百万円
当期純利益	25百万円

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、営業損失及び経常損失はそれぞれ912千円、税金等調整前四半期純損失は15,012千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,674,335	5,294,791
売掛金	1,565,811	1,786,258
有価証券	4,301,126	4,588,851
商品	142,414	137,882
仕掛品	394,797	117,539
その他	478,693	430,341
貸倒引当金	△37,552	△24,481
流動資産合計	11,519,626	12,331,182
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	105,045	106,317
車両運搬具及び工具器具備品（純額）	72,164	59,933
土地	46,000	—
有形固定資産合計	223,210	166,251
無形固定資産		
のれん	997,778	75,526
ソフトウェア	1,585,282	1,692,931
ソフトウェア仮勘定	253,918	182,144
その他	9,227	4,241
無形固定資産合計	2,846,206	1,954,843
投資その他の資産		
投資有価証券	539,275	649,703
その他	376,573	252,521
投資その他の資産合計	915,849	902,225
固定資産合計	3,985,266	3,023,320
資産合計	15,504,893	15,354,502
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	462,495	279,212
1年内返済予定の長期借入金	12,649	—
未払金	399,624	344,458
前受金	570,588	464,972
賞与引当金	94,019	77,350
その他	237,378	304,427
流動負債合計	1,776,756	1,470,421
固定負債		
長期借入金	13,299	—
その他	2,741	2,491

(単位：千円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成23年3月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年12月31日)
固定負債合計	16,040	2,491
負債合計	1,792,796	1,472,913
純資産の部		
株主資本		
資本金	13,264,700	13,263,950
資本剰余金	750	—
利益剰余金	△900,032	△743,584
自己株式	△8,714	△8,714
株主資本合計	12,356,703	12,511,652
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△133,188	△52,121
繰延ヘッジ損益	2,661	—
為替換算調整勘定	△193,315	△242,720
評価・換算差額等合計	△323,842	△294,841
新株予約権	△47,901	—
少数株主持分	1,727,137	1,664,778
純資産合計	13,712,096	13,881,589
負債純資産合計	15,504,893	15,354,502

(2) 四半期連結損益計算書  
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年1月1日 至平成22年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年3月31日)
売上高	2,036,793	2,075,580
売上原価	1,186,018	1,229,899
売上総利益	850,774	845,681
販売費及び一般管理費	1,008,640	864,691
営業損失(△)	△157,865	△19,010
営業外収益		
受取利息	10,350	5,044
受取配当金	810	900
投資事業組合運用益	—	14,865
為替差益	—	7,258
その他	2,343	925
営業外収益合計	13,503	28,994
営業外費用		
支払利息	58	41
投資事業組合運用損	15,114	5,838
支払手数料	—	41,556
為替差損	1,274	—
その他	1,946	404
営業外費用合計	18,394	47,842
経常損失(△)	△162,756	△37,858
特別利益		
貸倒引当金戻入額	14,061	156
負ののれん発生益	457,670	—
特別利益合計	471,731	156
特別損失		
合併関連費用	—	9,534
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	14,099
段階取得に係る差損	126,788	—
その他	—	4,910
特別損失合計	126,788	28,545
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	182,187	△66,247
法人税、住民税及び事業税	20,077	18,921
法人税等調整額	2,208	8,554
法人税等合計	22,285	27,475
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	—	△93,723
少数株主利益	50,103	62,725
四半期純利益又は四半期純損失(△)	109,798	△156,448



(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。